

平成21年度「教育ファーム意見交換会」概要

1. 日時 平成22年1月28日(木) 13:30 ~ 16:10

2. 場所 長野第2合同庁舎 1階共用会議室

3. 出席 農林漁業者・NPO 5名
教育関係者等 5名
その他 3名
長野農政事務所



4. 発表

(1) 教育ファームについて説明
長野農政事務所

(2) DVD視聴

「体験」による真の「学び」とは 効果測定の結果から

(3) 農業体験受入の取り組みについて

久保田 清隆 氏(まごころ・ふれあい農園)

5. 意見交換の内容

教育関係者 A: 奈須先生の講演DVDにおいて、定性調査結果から、「農家は「ダサイ」なんかではなく、「かっこいい」だったことをみんなに知ってもらいたいと思った」と子どもの心に変化が表れたことを報告しています。

しかし、子どもたちに農業を「ダサイ」、「かっこいい」と評価させてしまったこと自体が今の食文化の問題と言えるのではないのでしょうか。

久保田さんのお子さんは農業のお手伝いをしっかりなされているとお聞きしましたが、お子さんは農業に対しどのような評価をされているとお考えですか。

久保田氏: 何を見て「かっこいい」と感じたのか分かりませんが、私の息子は「自分がやっていて楽しい」と感じているから続けられるのだと思います。

ただ表面だけを見て「かっこいい」と感じるのは少し違うと思います。農業体験によって心の中から湧きあがる気持ちが大切だと思います。



農林漁業者 B： 久保田さんは農薬を使わない農法に取り組み、さらに農業体験の受け入れを行っておられますが、農家の経営についてどのようにお考えですか。

久保田氏： 正直、経営は借金もあり苦しいものがあります。しかし、悲壮感はありません。

農業においてまだまだやりたいこともありますし、何か可能性があるかと信じ楽しみを持って続けています。

収入面では通年で野菜生産を行っており、なんとか回っていればそれでいいと思っています。

教育関係者 C： 教育ファームの標準的な取り組み事例について伺いたい。

農政事務所： 県下の小学校では総合学習の時間において農作業体験に取り組んでいます。農地の地主や近隣の農家の方と連携して「農家先生」として指導いただく取り組みが多く行われています。

本日パネルにて、飯綱町及び坂城町での小学校と市町村の教育ファーム推進協議会や地域が連携した教育ファームの取り組み事例を掲示させていただきます。行政と連携した取り組み事例です。

教育関係者 D： 私は障害者の作業支援施設に従事しています。農作業体験を行うにあたり、受入先をどのように開拓されているのでしょうか。

また、障害者への指導は難しいと思いますが、体験する側を理解し農業者双方をつなぐアドバイザーも必要ではないかと思います。

農政事務所： 教育ファームの取り組みにおいて受入先の確保は大きな課題となっています。まずは受入先の農業者の方に教育ファームをご理解いただき、受け入れにご協力いただくことが重要と考えますし、アドバイザーも必要と考えます。明確な回答はできませんが、本日は皆さまからお知恵をいただく「意見交換会」となればと思っています。

教育関係者 A： 「食育情報リンクネットながの」では食育推進の一環として、「教育ファーム」の支援をテーマの一つとしています。

教育ファームを推進するにあたり、組織をどのように立ち上げ、いかに人を集め連携させるかを話し合うためにこの「意見交換会」があると思います。



リンクネットでは、教育ファームの推進のきっかけとして、市立泉月・長野高校の総合学習の取り組みについて、どのようなお手伝いができるか、行政は何ができるかを探っていきたいと思っています。

農政事務所： 農業体験受け入れにあたり、ご自身として悩みや迷惑に感じたことがあればお話しいただけますか。

久保田氏： 体験者に怪我をさせないことやどのような体験をさせるかに神経を使っています。

研修生の不慣れな作業で農機具の破損やほ場を荒らされてしまったこと、また、日帰りでちょっとだけ手伝いたいという方には迷惑を感じたこともあります、そのことで自分自身も学ばされることもありました。

体験受入について特に募集をしているわけではありませんが、本気で取り組みたいという方が集まってくれています。

6．参加者からの意見

農林漁業者 B： 教育ファームの取組みを広げるためには小中学校、農業公社、JA、教育委員会、行政等のタテ・ヨコのつながりを活用すればよいと思います。

食農教育からいえば「農」として農業者の立場から、「食」として健康に携わる方々の立場から意見交換を行えば教育ファーム推進の輪が広がると思います。

今後この様な意見交換の場を開催してほしいと思います。

7．むすびに

教育ファーム推進には地域との接点を持つことが重要であり、やる気のある人の知恵を借り、地域で作り上げる取組みとすべきです。

本日の意見交換会は「教育ファーム」を理解するためのきっかけと位置付け、2月13日開催の「食育シンポジウム」において、教育ファームの取組みをさらに広げるための効果的な手法等を学びあいます。